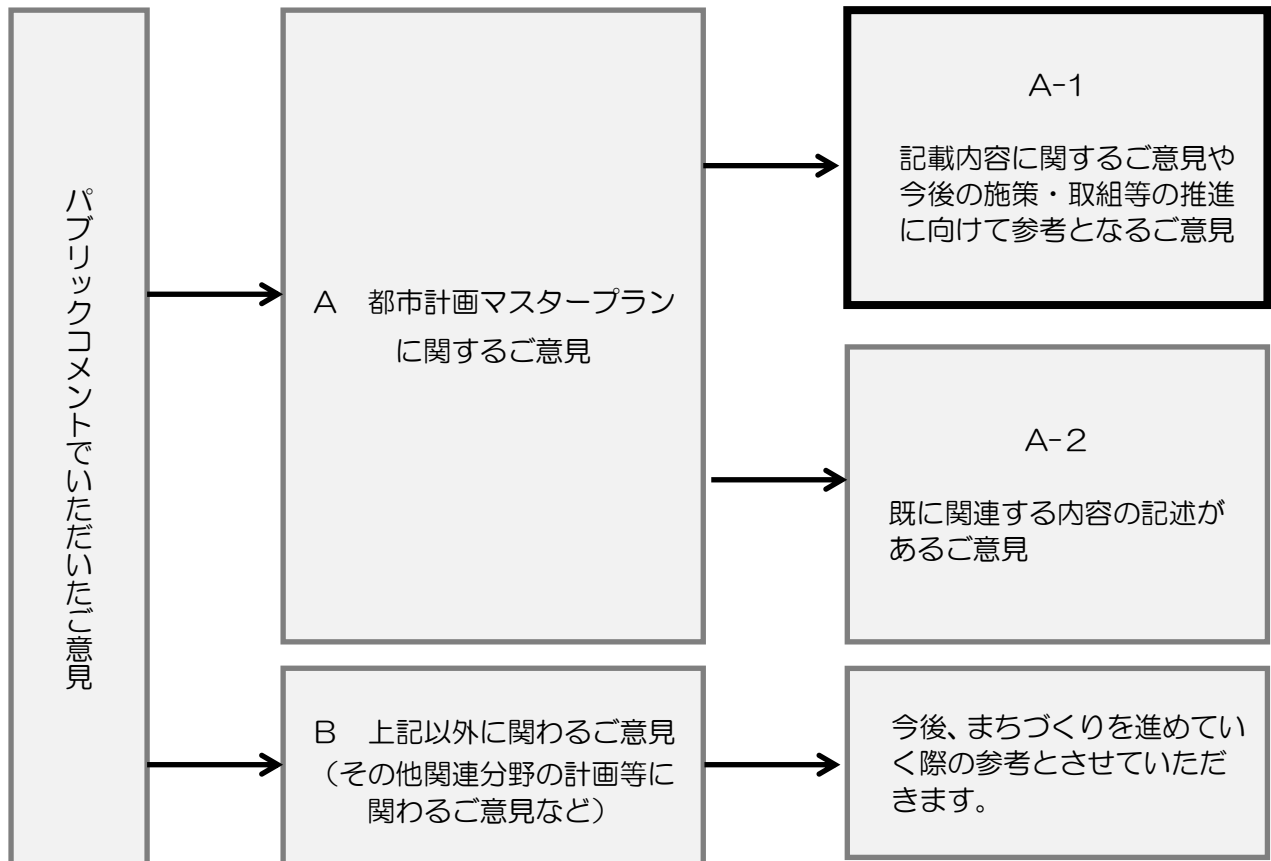


小平市都市計画マスタープラン改定（素案）に対する
市民意見公募手続（パブリックコメント）の結果 ー概要ー
【検討用資料】

1 実施結果の概要

実施期間	平成28年12月15日（木）から平成29年1月13日（金）
応募者数	52名
	属性 男性 33名 / 女性 18名 / 団体代表 1名 年齢層 10代… 0名 20代… 2名 30代… 2名 40代… 10名 50代… 5名 60代… 11名 70代… 9名 80代… 2名 90代… 1名 無記入… 10名（団体含む）
提出の方法	ホームページ… 16名 電子メール… 4名 ファクシミリ… 3名 郵送… 21名 持参… 8名

2 応募意見の整理



3 応募意見の概要

■第1部 はじめに

第1章 小平市都市計画マスタープランとは

番号	意見等	該当項目 及び考え方
1	<p>●小平市民等提案型まちづくり条例について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「小平市民等提案型まちづくり条例」は6年間一度も利用されていないと聞いているが、市民の意見を吸い上げる手段としてはハードルが高すぎるのではないかと。利用しやすい条件に訂正した方がよい。使おうと思った市民も居るはずなので、その意見も聞いた方がよい。 	<p>A-1</p> <p>今後、まちづくり条例の活用促進の方策を検討する際の参考意見とする。</p>
2	<p>●小平市都市計画マスタープランの位置づけについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在の計画の踏襲であるなら、マスタープランを作成する意味は薄い。「さまざまな計画との整合を図り、都市の将来像とその実現までの道筋を示すものです。」とありますが、もう一步踏み込んで以下のように記載することを提案する。 <p>⇒「さまざまな計画などとの整合を図りつつ、小平市ならではの都市の将来像とその実現までの道筋を示すものです。」</p>	<p>A-1</p> <p>計画全体を通して「小平らしさ」を踏まえているため、参考意見とする。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> 並行して検討が進んでいる、産業振興計画、都市農業振興計画、公共施設マネジメントを都市計画ときちんと関係付けると、各計画の実現性が担保されると思う。都市計画マスタープランの位置づけを再考すべきだ。 他の計画との関連等が把握しにくい。他の計画で主に定める項目（農地や観光など？）の記述の際に「〇〇計画に関連」など、書いていると分かりやすく、他の計画にも関心が高まる効果があると思う。 	<p>A-2</p> <p>都市計画マスタープランの位置づけは都市計画法に基づく基本的な方針である。</p>
4	<p>●文章、構成の伝わりやすさについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 冒頭に都市マスに興味を持ってもらえる文章を入れてはどうか。（都市マスとは何か、都市マスが市民の生活にどのように関わっているのか、ここに書かれた内容がどんな影響を及ぼすのか、市民生活の何を定めているのかなど）冒頭に具体的にイメージできる文言を入れることで、興味を持って読み進めることができると思う。前回より、図や構成はぐんと読みやすくなったと思うが、それでも多くの市民には内容に興味をわきにくく量も多いため工夫をしてもらいたい。 	<p>A-1</p> <p>表紙、デザイン、コラム等でより親しみやすい紙面構成を工夫する。また、概要版を作成する予定である。</p>

第2章 小平市のまちの現況

番号	意見等	該当項目 及び考え方
5	<p>●現状分析について</p> <p>・分析やシナリオの検討が不十分ではないか？人口減少・高齢化に対応したまちづくりの必要性を訴えているが、計画づくりの前提が国や東京都と同様のマクロ的な見通しになっていて、小平市の地域特性や今後の努力を反映していない。市民に状況を理解してもらうためには、複数のシナリオ（人口推計、産業・都市農業・商業計画、歳入・歳出計画、ロードマップで構成）の比較検討の結果として選んだ案の提示が必要だ。</p>	<p>A-1</p> <p>都市計画マスタープランは、都市計画の観点から総合計画で示された将来像を具現化するための基本方針である。</p>
6	<p>●位置と地形について</p> <p>・市域は東西 10km、南北 4km ⇒ 9.2km、4.2km と下一桁位でも良いのでは。</p>	<p>A-1</p> <p>検討する。</p>
7	<p>●目標像について</p> <p>・都市マスの目標像は、住民や企業行政の要求にもとづいた、安全で快適な都市生活と効率的な都市活動の将来像を作る、小平の「都市開発」のことである。小平市に関していえば、都市のあり方・理念、将来における人口・産業・土地利用などの規模や構成、市民や企業（事業者）に対して保証すべき都市生活・活動の目標像です。そこで、①都市マスと市民の出会い ②都市計画をみんなが知るためには ③何を計画するのか等、市民に分かりやすく説明する必要がある。</p>	<p>A-2</p> <p>第1部～2部に記載している。</p>

■第2部 まちづくりを取り巻く状況と見直しの視点

第1章 小平市のまちづくりの経緯

番号	意見等	該当項目 及び考え方
8	<p>●マスタープランの基本理念について</p> <p>・小平市は東京のベッドタウンとして宅地化が進み居住者が増加している。転入者にとって、小平の歴史を知る人はほとんどいないだろう。まずは小平市の歴史を知り、そのレガシーから基本理念とその背景を明らかにしないと、なぜこのようなプランが提案されているか理解できないだろう。歴史認識を踏まえ、今一度、基本理念を明確に示すことが市民にとって必要である。</p>	<p>A-2</p> <p>第2部に記載している。</p>
9	<p>●緑の保全と創造について</p> <p>・「...風致地区内の緑や農地（生産緑地）は、宅地化の進展により減少しつつあり、...」とあるが、風致地区に指定されていた青梅街道は、一部指定を見直す方向にある。また、農地保全を謳いながら、農地は減る一方である。そのため、行政が所有している緑を最大限生かすこと、沿道の緑や農地を含む緑を残すために行政所有の緑を確保し、市民も一緒になって維持することが必要である。</p>	<p>A-2</p> <p>「水と緑のまちづくりの方針」で行政が所有している緑はもちろん、市民が所有する緑・農地の保全に向けた検討を進めていくという趣旨は記載している。</p>

第2章 小平市のまちづくりを取り巻く状況

番号	意見等	該当項目 及び考え方
10	<p>●マスタープランを取り巻く状況と視点について</p> <p>・「どういう都市をつくるべきか」その計画目標と経過について、小平市の都市形態をふまえて、現時点での施策が示されています。</p> <p>都市マスがめざすのは、①快適な都市生活 ②安全で効率的な都市生活の実現です。</p> <p>●そこで、小平市の現状と課題をふまえ、都市計画（プランニング）とは何か、改定のまとめに示されたとおりの考えばかりではなく、「こだいら」の都市とは何か、その地区の特徴と多様性の実現を期することです。</p> <p>例えば「都市マス」に関連して、従来からの「居住者・※引っ越してきた」</p>	<p>A-1</p> <p>左記の趣旨を踏まえて策定している。</p>

番号	意見等	該当項目 及び考え方
	<p>方々の要求と、土地の有効活用・地域の「活性化」を求める土地所有者（地権者）層の要求は、相互に矛盾しています。</p> <p>※小平市が住みやすいということで引っ越してきた方々。（プチ田舎）に関連して「文化交流」があり「暮らしやすく、緑とくつろぎ空間」があり、都会と田舎の両方のよさが共存している地域ということです。</p> <p>要求の矛盾というのは、多様な人びと・企業による多様な都市活動により起こるのではなく、1人の人、一つの企業（事業者）の要求の中にも、立場の違いからくる矛盾があるということです。小平市でも、多様な人や多様な企業が多様な価値基準で活動しており、計画をめざす都市と都市生活を視点に、課題を推進することです。</p>	
11	<p>●計画的な道路ネットワークの形成について</p> <p>・記載している内容は分かるが、第四次事業化計画においてこの10年間で優先整備路線となっていない道路ネットワークと、みどりのネットワークが交差することについてどのように考えているのか？ユネスコのプロジェクト未来遺産に登録された玉川上水と、交差する未整備、未着手の都市計画道路3・4・22や3・4・20などについては、この10年間で、社会的状況によって変化によって、見直しする余地を残しておくことを検討頂けないか？当該項目の最後に、以下を追加することは出来ないか？</p> <p>⇒「一方、未整備の都市計画道路には、水とみどりのネットワークと交差するものなど課題もあります。今後10年間の社会状況の変化の中で、市民の意向をふまえながら、東京都、近隣市とも協議して、10年後以降に優先的に整備すべき路線、見直すべき路線等を検討して、第五次事業化計画の際に東京都および、市町村と調整します。」</p>	<p>A-1</p> <p>「道路・公共交通ネットワーク等の方針」に記載しているが、具体的な内容については、今後の参考意見とする。</p>

第3章 マスタープランの見直しの視点

番号	意見等	該当項目 及び考え方
12	<p>●まちづくりの大きな方向性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「前マスタープランに示された「まちづくりの理念」「まちづくりの目標」「まちづくりの方向」～大きな方向性の変化はないと考えます。」とあるが、社会環境の変化と各種指標が減少傾向にある説明からは唐突すぎる結論だ。今後10年間に目覚ましい進展が見込まれ、都市計画や産業に多大な影響を及ぼす可能性があるICT（情報通信技術）の活用についての記述が全くないのも理解に苦しむ。「大きな方向性は今までどおりです」には違和感がある。 ・「今後10年の本市を展望しても、大きな方向性の変化はない」とあるが、理念はともかく目標・方向においては、今まで経験したことのない人口減少が始まることを考慮した場合、あらゆる領域で縮小する時代に入る現実の危機的状況を、正確に捉えていないと思う。 ・「まちづくりの理念」「まちづくりの目標」「まちづくりの方向」については、今後10年の本市を展望しても、大きな方向性の変化はないと考えます」について「大きな方向性の変化はない」とはどういう見方ですか？“人口減少は避けられない”22%を越えた65歳以上の老年人口がさらに増える”空家・空き店舗の増加”など様々な問題が起こるという状況で、過去10年間と方針が同じはずがない。まちづくりの方向性を、どうしても必要な開発にしぼった形で投資することや、ハード中心からソフト中心への転換、新規開発から保守への方向転換が必要ではないか。 	<p>A-2</p> <p>現計画においても、高齢化や駅を中心としたまちづくり、緑の保全等の考え方は示されており、人口減少等の新たな課題に対して、様々な視点を考慮し、将来に渡って持続可能となるまちづくりを示している。</p>
13	<p>●水と緑のあるまちづくりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年4月に都市農業振興基本法が制定され、都市農業の方向性が180度変わったことを踏まえ、どのように都市農業を発展させていくかを具体的に述べて頂きたい。 	<p>B</p>
14	<ul style="list-style-type: none"> ・「小平の風景であるみどりを維持・保全し、またこれらのみどりを活かしたまちづくりに向けた見直しをします」について「<u>農地を含むみどり</u>」などの農地を入れてほしい。 	<p>A-2</p> <p>「みどり」には農地等も含んで使用している。</p>
15	<p>●見直しの視点の追加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「変化していく「環境」に柔軟に対応できる地方自治」の追加を求める。「環境」とは市民ひとりひとりを取り囲む、身の回りの「生活世界」のことである。第2部第3章の「4 鉄道駅周辺の拠点を高めるまちづくり」にある「拠点性を高める」とは具体的にはどのようなイメージなのか？ 今後、求められるまちづくりでは都市化を前提とする「便利さ」を追求するのではなく、持続可能な形で生活を安心・安全に営むことを選択する中・長期的視座を大切 	<p>B</p>

番号	意見等	該当項目 及び考え方
	にすることである。このような「環境」に対する市民の価値観の変化を受け止め、柔軟に政策を行える市であって欲しい。	
16	<ul style="list-style-type: none"> ● 関連法令、上位・関連計画等との整合について ・ 国の地域主権改革と謳っているので、もう少し主体的な感じが得られると良い。 	A-2

■第3部 全体構想と実現に向けた取組

第1章 全体構想

番号	意見等	該当項目 及び考え方
17	<p>●まちの将来像について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「みどりつながる生活空間 快適都市 こだいら」となっているが、小平市は「プチ田舎」と商標登録したと聞いている。整合性が取れていないのではないか。「みどりつながる快適空間 プチ田舎 こだいら」ではないのか。 	<p>A-1</p> <p>プチ田舎は観光まちづくり振興プランにおけるキャッチフレーズ。都市MPでは市民生活が目指す空間像をより意識し、見直し検討委員会で議論を行い定めている。</p>
18	<p>●まちづくりの目標1「“顔”をもったまちをつくる」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄道駅を中心としてまちを整備するという方針は良い。公共交通ネットワークの形成と道路ネットワークの形成という記述があるが、この道路ネットワークは公共交通（バス）の定時性が確保されることや、バス停で待つ人と歩行者が互いにゆとりを持つことのできる歩道の整備など公共交通の利用しやすさを中心にして考えた方が良い。今後、高齢化がさらに進み、免許返納なども議論されている時期なので将来の事を考えると自家用車に頼りすぎることはリスクになるのではないのか。 	<p>A-1</p> <p>市の成り立ちや国・東京都の動向等を踏まえ、今後も駅を中心とした都市の形成を図るなかで、超高齢社会の進展などの課題を見据えた道路・公共交通ネットワークを構築していく。</p>
19	<p>●まちづくりの目標2「“みどり”を感じられるまちをつくる」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「そのため、～小平のみどりを活かしながら、新たなみどりの創出も図り、～まちづくりを進めます。」では表現が弱い。「小平のみどりを守りながら」としてほしい。 	<p>A-1</p> <p>「みどりを活かす」に“守る”の意味を前提として含んでいる。</p>

番号	意見等	該当項目及び考え方
20	<p>●まちづくりの目標5「市民の“ちから”を活かせるまちをつくる」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「市民の“ちから”を活かせるまちをつくる」を目標1にするべき。これを冒頭に持ってくれば小平市の独自性が出ると思う。 	<p>A-1</p> <p>目標の順番は優先順位ではない。</p>
21	<p>●都市構造について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拠点とネットワークの設定に疑問。7つの鉄道駅を拠点とし、ネットワークで接続するという構想は正しいのだろうか。既存の鉄道駅や道路ネットワークを前提にするのではなく、市民生活、産業振興、都市農業振興、商店街活性化、防災の観点から、周辺都市との今後の関係づくりも念頭に、小平市のまちづくりと市外との交通や市内交通網を、時間をかけて整備していくべきではないか。 	<p>A-2</p> <p>市の成り立ちや国・東京都の動向等を踏まえ、「将来の都市構造」で示す拠点やネットワークを市の骨格と捉えている。</p>
22	<p>●みどりの拠点について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みどりの拠点に以下を追加。あわせて、最後に「市内の緑を確保するために緑債を検討します。」を追加する。 <p>中島町にあるこもればの湯の北側にある樹林地（都保有？）、上水新町一丁目、鈴木町一丁目、小川町一丁目上水新町一丁目の雑木林特別緑地保全地区、小平霊園</p>	<p>A-1</p> <p>「将来都市構造図」の中で、一部を反映する。</p>
23	<p>●連携軸・交通軸について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これから人口減少に突入する視点を正確に持てば、新たな都市計画道路を今まで通りの軸と考えるのは間違いである。 	<p>A-1</p> <p>都市構造においては、広域な都市間や拠点間を結ぶ幹線道路を連携軸として考えている。</p>
24	<p>●連携軸・交通軸と水と緑のバランスについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「都市計画道路の整備にあたっては、特に都市計画道路と小平グリーンロードの交差や隣接する箇所などについて、小平の水と緑の自然環境を守ることでできる整備のあり方を市民参加で検討する。」の一項目の追加を求める。 ・連携軸として2つ上げられている交通軸と水と緑の軸が交差する場合は、両者が両立しうるよう十分に検討するという文言を加えてほしい。 	<p>A-1</p> <p>地域別構想のなかで地域住民とともに沿道の一体的なまちづくりを</p>

番号	意見等	該当項目及び考え方
		検討する旨を記載している。

第2章 まちづくりの目標に基づく戦略

番号	意見等	該当項目及び考え方
25	<ul style="list-style-type: none"> ●まちづくりの目標1「“顔”をもったまちをつくる」について ・駅が多いので、コンパクトシティを導入しやすい環境にある。マスタープランにもっと反映できないだろうか。 	A-2 コンパクトシティの概念は念頭に検討を行っている。
26	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前再開発の見直し（駅前の再開発の手法として駅前にタワーをもうけると言ったどこでも似たような町並みができてしまう。再開発して街が衰退する例も山ほどあるので、もっとコンパクトで人の顔が見える開発にするべき。） 	A-2 地域別構想のなかで地域住民とともに沿道の一体的なまちづくりを検討する旨を記載している。
27	<ul style="list-style-type: none"> ・人々が集まる拠点づくりは商店や病院、学校など、すでにある“人の集まる”場所やその周辺を活性化する施策をお願いしたい。 ・駅ごとの役割の違い以前に、駅周辺はやはり店が多くあって便利であるべきである。花小金井駅のようなぎわいを可能な限り他の駅でも行うべきである。もっとあかぬけてほしい。（＝観光化という意味ではない） 	A-2 地域ごとにまちづくりの方針等を記載している。
28	<ul style="list-style-type: none"> ・西武多摩湖線の青梅街道駅を市庁舎の西側へ移設し、利用者の利便性を図るべき。 	B
29	<ul style="list-style-type: none"> ・小平の顔は駅ではなく、自然、玉川上水であって欲しい。今ある緑を大切にそれを小平の顔（？）、小平の魅力にすればいいと思う。駅は道路と広場（公園・ロータリー）だけで充分だと思う。 	A-1 鉄道駅周辺は商業・業務機能等が集積する、便利な生活が出来る場

番号	意見等	該当項目 及び考え方
		所として環境を整えるということから「顔」と表現している。
30	<ul style="list-style-type: none"> ●まちづくりの目標2「“みどり”を感じられるまちをつくる」について ・農地がたくさんあるメリットを生かし、子供、家族、若者をターゲットに短期的な農業体験のようなサービスが充実すると市外から人が入ってくるきっかけになると思う。 	A-2 左記の趣旨は、地域別構想等に記載している。
31	<ul style="list-style-type: none"> ・戦略3として、「農地の保全、都市農業」について記載して欲しい。都市農業振興基本法に基づいて「小平市農業振興計画策定の基本方針」を策定しようとしており、市の各分野の計画とも矛盾しない内容であり、かつ、第3部第3章の土地利用方針の(5)農地・生産緑地の内容ともあっている。 	A-2 「水と緑のまちづくりの方針」で記載している。
32	<ul style="list-style-type: none"> ・少なくとも農業《公園》ではないと思う。私が住む文京区では、上野（谷中、根津、千駄木）あたりで古い民家（民地）をナショナルトラストが管理運営している。開放する日は限られていますが、元の住宅の使い方を保っている。異なった用途にしてしまったら、その雰囲気は保たれない。小平の場合、戸建ての民家の保存とは異なり、もっと大きな、そして広い《農村の風景》が保たれなくてはならない。細かい区割りされた農地では、小平の風景は失われる。里道（たからみち）や小川分水など、小川村開村以来のインフラストラクチャーを保全することが《農村の風景》である。 	A-2 「水と緑のまちづくりの方針」で記載している。
33	<ul style="list-style-type: none"> ●まちづくりの目標3「“にぎわい”を育むまちをつくる」について ・BSの宿舎の跡地にホテル等宿泊施設を建設して地域の活性化を図る。また自衛隊鈴木官舎後を国から譲渡してもらい、公園等にして憩いの場を作る。 	B
34	<ul style="list-style-type: none"> ・道路が賑わいを作るという勘違いを改める。（太い道路ができて街が希薄で魅力がなくなってしまった例は全国に山ほどある。逆に賑わいの象徴であり住みたい街の上位に上がっている吉祥寺や下北沢は太い道路がなく車の通過としては不便になっているがそのため人が散策して楽しい町並みになっている。道路が賑わいを作るというのは大きな勘違い。こんな都市計画をしてるのは先進国では日本だけ。もっと勉強して下さい。） 	A-1 道路は広域的な観点や市域内の円滑な交通ネットワークの形成を図ることを前提

番号	意見等	該当項目 及び考え方
		に整備を図るとい う方向性 を記載してい る。
35	<p>●まちづくりの目標4「“ひと”にやさしいまちをつくる」の戦略1について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災のに関して2次元的なことでは即応できず、庁舎屋上や大規模病院等にヘリポートを確保し、3次元的な運用・対応能力を向上させる必要がある。 	B
36	<p>●まちづくりの目標4「“ひと”にやさしいまちをつくる」の戦略3について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小平駅、花小金井駅は駅をおりるとすぐにグリーンロードがあるので、ウォーキング・ジョギング・サイクリングと関連したサービス（例：ランステーション、スポーツ用品店）を提供しつつ、健康都市をアピールできると良いと思う。 ・ボランティア活動を「ポイント制」にして、将来、本人が病気したり介護が必要になった時にポイントを活用し生活費の負担を軽減出来る制度があると助かる。 ・最近、飛行機のそう音がひどくテレビの音声が聴えない時があり改善してほしい。 	B
37	<p>●全体構想の取組と戦略について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市マスの理念・将来像と戦略課題などは、実際どうやって望ましい都市生活、都市活動を実現し、運営するのか、いわば小平市の都市計画の施策・方法論について考察することである。次に示す「都市計画を進める手順・ステップ」を参考に検討してほしい。 ①都市「こだいら」に住まいに働く人びと、あるいは、そこで活動する企業の要求 ②目標とする都市生活・都市活動を実現し得る小平市像を想定する ③「こだいら」の都市像実現に向けて主体的に計画をたてる ④都市の計画の（目標・意図）に沿って、都市マスを運営する ⑤計画が、その目標・意図・予定等の進行管理を行うことです 	<p>A-1</p> <p>都市MPで示すまちの将来像の実現にむけて「まちづくりの目標・戦略」「部門別まちづくりの方針」に基づき施策・事業等を推進していく。</p>

第3章 まちづくりの方針〈部門別〉

番号	意見等	該当項目 及び考え方
土地利用の方針		
38	<p>●コンパクトなまちづくりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、出来上がったまちを、今後人口減少に伴い、機能を損なわずにどのように縮小させていくかを、住民と一緒に考え行動する必要がある。市全域を学校等の公共施設を中心に緩やかな住居地域、建設範囲・領域の誘導を行い、長い目で、コンパクトエリアが点在する小平市にする計画が必要である。コンパクトエリアとコンパクトエリアの間は都市農業が広がる形式が広がっていく時代を迎えるのではない。そしてそれを結ぶコミバスはさらに重要になる。コンパクトエリアと商業地域を結ぶことによりコミュニティも創出する役割を果たす。 	<p>A-1</p> <p>鉄道駅周辺を拠点とし、生活利便施設などの都市機能と交通ネットワークの形成によるまちづくりを記述している。</p>
39	<p>●低層住宅地について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ゆとりある敷地の確保や敷地内の緑化を促進し」には賛成するが、具体的にどのような方法を考えているのか。小平市独自の緑化条例を創設してはどうか。 	<p>A-1</p> <p>今後の施策・取組等の推進に向けて参考とする</p>
40	<p>●商業地について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商業地域ごとにどのような商店が欲しいかのヒアリングを市が行い、その商店街に働きかけを行い、且つ、商店同士の話し合いを主導し、魅力ある店の誘致、内容のブラッシュアップを図ることを考えて頂きたい。起業する商店には補助金の提供も考えると良い。 	<p>B</p>
41	<p>●市街地再開発事業等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小川駅西口、小平駅北口の再開発は、まず道路整備の後に市民と一体となって考えましょう。高層建築は小平にふさわしくない。基本姿勢として小平らしく、まず地元の商店街の再生・復活を地道に作り出す工夫が必要。 ・小川駅の開発も、開発＝新しいビルではないと思う。プチ田舎というレッテル貼りたいなら、玉川上水を潰したり、雑木林を自然を破壊する術は捨てたらいいいのに。いかがでしょうか？ ・小平に住んでいる、住みたいと思う人の多くが緑の多さやのんびりとした雰囲気魅力的だと考えているのではないか ・土地所有者の相続や市の財源のこともあるが、小平の中でもその地域が望む開発、大切にしたいものがあるように思う（小川駅、小平駅北口開発等） 	<p>A-1</p> <p>再開発事業については、地域別構想に記載している。今後の施策・取組等の推進に向けて参考とする。</p>
42	<p>●農地・生産緑地について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市が買い取る農地に市民として関わるができるしくみを作る。 	<p>A-1</p> <p>今後の施策・</p>

番号	意見等	該当項目 及び考え方
		取組等の推進 に向けて参考 とする。
43	<p>●市が管理する土地について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「国・都が管理する土地を積極的に活用する方策」があると考え。例えば、玉川上水の土手にベンチや、トイレ、を設置してもらい、一層の観光化を図る。 	A-1 今後の施策・ 取組等の推進 に向けて参考 とする。
道路・公共交通ネットワーク等の方針		
44	<p>●道路整備の反対に関する意見について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市計画道路3・2・8号線は環境破壊になります。自動車の便利さばかり計らず、人が住む環境をどう破壊から守るかを考えるべき。 ・地下道案を実現すべし。東京都は車道を作れるし住民は玉川上水を楽しめる。ウィンウィン！！これ以外に方策なし。 ・3・3・3道路はいらない。3・2・8道路は再検討すべきである。道路がネットワークを構成し、小平市が活気溢れるまちになると記載しているが、私はまったく真逆で、これらの道路こそ、コミュニティを分断・分割し、まとまりのない寂れたまちをつくりだす元凶と考える。特に小平3・3・3は小平市の真ん中を南北に分断することになる（横軸）。現在事業中の小平3・2・8（縦軸）とにより、小平市は大きく4つの地区に分割・分断され、お互いの交流がままならないまちになることは明白である。将来の人口減、交通量減を見据えて、小平3・3・3は本当に必要な道路かを真剣に論議することが私たちの責務であることを忘れてはならない。再検討を求める。 ・市の人口の減少や車社会からの転換、緑の重要性等のことも考慮し、都市計画道路を市民全体で見直し、現代に合った都市計画を行っていくべき。 ・何十年も前に計画した東京都の道路計画について見直しを都に提案したらどうか。社会の変化、人口減、消費生活の変化に沿った計画が必要だ。 ・道路問題の基本である都市計画道路についての小平市の理念と方針が基本的に誤っていることを以下の論点から指摘し、政策理念の改定、変更を要求する。 <p>1 道路政策及び運用については本プランの各処において記述され、諸政策に重要な関わりを示している。（例えばP17、P19、P22、P27、P28、P31、</p>	A-1 道路整備にあ たっては、広 域的な観点、 かつ市域内の 円滑な交通ネ ットワークの 形成や歩行者 や自転車利用 者のネットワ ーク形成の観 点から整備を 行う必要があ る旨を記載し ている。 なお、優先整 備路線以外に ついては、都 と連携を図り ながら整備の あり方を検討 していく。

番号	意見等	該当項目及び考え方
	<p>P36、P37、P38 等)</p> <p>基本的な理念が変わればこれらの個々の事象も自ずと変更される。</p> <p>2 基本的な理念と方針に誤りについて。小平市の理念（あるといえるかどうか）と方針は東京都の理念と方針をそのまま踏襲しているのではないか。ところが整備方針に規定した具体的な方針や計画は第二次整備計画の整備方針のなかで明白にあやまちがある。それは以下の点。</p> <p>①格子状の都市計画道路は既成のまちに適用していること（格子状都市計画道路はまちこわし）</p> <p>②まちづくりは住民が選択するものである。ところがこの理念を破壊しているのが格子状都市計画道路であることになぜ気が付かないのか。</p> <p>③既成市街地の都市計画道路の線引きは関係住民が反対の場合はすべて計画を廃止せよ。今後の道路建設の基本方針は、以下のとおりであるべき。</p> <p>イ 関係住民の要求及び合意のもとに行うこと</p> <p>ロ 未着手都市計画道路は関係住民の合意のないものは廃止すること</p> <p>ハ 現状及び将来交通需要のない未着手都市計画道路は廃止すること</p> <p>ニ 市全体のまちづくりを広域的及び地域的に住民参加で策定すること。</p> <p>・持続可能な社会を実現とコンパクトな街づくりのため、東京都を含む都市計画道路計画の点検見直しをするべき。</p> <p>・現在 19 万人の小平市の人口は 2060 年には 14 万人に減少すると試算されている。また高齢化によって車の所有台数も減少する。こうした社会の変化に対応して都市計画道路については市民参加で全面的に見直し東京都に提言する。</p> <p>・道路計画も何十年も前の計画が、現在や未来にとって必要だとは思えないものが多くある。計画ありきではなく、市民が望むまちづくり、未来に負の遺産を残さないためにも、市民の声を反映した検討、またそれを吸い上げるための仕組みづくりをお願いしたい。</p>	
45	<p>●道路整備に関する議論の場の必要性について</p> <p>・「まちづくりの整備方針」として同等に掲げられた「水と緑のまちづくりの方針」と「道路・公共ネットワーク等の整備方針」が両立しない場合、そのまま片方を優先するのではなく、市民で検討する委員会を開催し、十分な情報にもとづき、徹底した議論を行い、解決策を検討する。</p>	<p>A-1</p> <p>市民参加については第 5 部に記載。今後の施策・取組等の推進に向けて参考とする。</p>

番号	意見等	該当項目及び考え方
	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画道路と水・緑地（玉川上水・雑木林・緑地等）が交差するような場合は、各部門別だけ検討するのではなく、ぜひ複合的な形でチームを設け、計画を立てて頂きたい。そのことを文案の中に入れて頂きたい。 	
46	<ul style="list-style-type: none"> ●道路ネットワークの整備について ミニ開発が多く、道路が分断されているところが多い。特に歴史的理由で東西に繋がる道路が極めて少ないため、迷路が多い。なし崩しの農地の宅地化を防ぎ道路ネットワークを整備することが出来ないだろうか。 	<p>A-2</p> <p>「道路・公共交通ネットワーク等の方針」に基づき整備を図る。</p>
47	<ul style="list-style-type: none"> ●道路整備の優先順位について 都市計画道路以外の道路の整備について、歩行や自転車走行が安全にできる道路に改善する方針を決め、危険な箇所を調査して優先的に進める。 五日市街道、府中街道、青梅街道に囲まれた狭い所に南北府中所沢線、東西に新五日市街道が計画されている。人が住む所より道路の方が多いのではと思うほどで、みどりの町小平ではなく、公害の町小平になるのではと心配。府中街道、五日市街道、青梅街道、それぞれの歩道はおそまつ。きちんと整備することこそ優先すべき計画ではないか。住まいをうばってまで新しい道路が必要とは思えない。 	<p>A-2</p> <p>「道路・公共交通ネットワーク等の方針」に基づき整備を図る。</p>
48	<ul style="list-style-type: none"> ●自転車道について 新しい道路づくりには必ず自転車専用道路を併設して下さい。にぎわい拠点づくりにも自転車専用道路を作して下さい。 自転車に関する視点が欠如している。三鷹市や小金井市では最近すばらしい自転車レーンが整備されている。ハード・ソフト両面から、小平市こそ自転車先進市となる計画を柱の1つに掲げるべき。グリーンロードの主要部分は自転車道なのだから。 	<p>A-2</p> <p>「道路・公共交通ネットワーク等の方針」に基づき検討する。</p>
49	<ul style="list-style-type: none"> ●交通弱者に対する配慮について 何本かの都市計画道路は実施されるが、見えない高齢者が安全に道路を横断できる施策、生活道路を含めて安心して外出できる計画を実施してほしい。音響信号とエスコートゾーンの設置を忘れずに実施して下さい。 	<p>A-2</p> <p>「道路・公共交通ネットワーク等の方針」にユニバーサルデザインへの対応の</p>

番号	意見等	該当項目及び考え方
		考え方は記載している。
50	<ul style="list-style-type: none"> ●公共交通ネットワークについて ・公共交通網を充実させて欲しい。 ・老若男女が活動しやすい交通ネットワークの構築をお願いしたい。具体的には「市内循環バス」を市役所、学校および鉄道駅等を中心に各地域へネットワークを構築することにより活動範囲が広がり「安全でかつ安心できる」快適な生活がおくれるのではないかと。高齢者の運転免許返還にもつながるのではないか。 	<p style="text-align: center;">A-2</p> 公共交通ネットワークの形成の方針に基づきネットワーク形成を図る旨を記載している。
51	<ul style="list-style-type: none"> ●鉄道整備について ・多摩湖線の終点萩山を小平まで延線し、JRと西武新宿線等との便宜性・時間短縮を図り、利用効率を上げ小平駅の拠点化を図る。 	<p style="text-align: center;">B</p>
52	<ul style="list-style-type: none"> ●ユニバーサルデザインについて ・小平市はユニバーサルデザインに向いている街である。大きな道路計画より住宅地の細かい道路の部分部分に目を見張り、細かい対応が求められている。 	<p style="text-align: center;">A-2</p> 「道路・公共交通ネットワーク等の方針」にユニバーサルデザインへの対応の考え方は記載している。
53	<ul style="list-style-type: none"> ●その他 ・花小金井駅から小金井公園に行く道路の整備を要望する。サイクリングロードから上記公園に行く道路が不備のため、年間多数の公園訪問者の方から道路を聞かれますが説明するのが大変。ご検討下さい。 	<p style="text-align: center;">A-2</p> 今後の施策・取組等の推進に向けて参考とする。
安全・安心なまちづくりの方針		
54	<ul style="list-style-type: none"> ●避難路等について ・災害時の緊急搬送ルートとして緑道ネットワークを形成すること（道路に車があふれ身動きとれなくなった東日本大震災の経験から道路は非常時の搬送ルートとして機能しないため、普段は車が入れない緑道や歩行者専用道路網を確保することが求められる） 	<p style="text-align: center;">A-1</p> 都市計画道路による延焼遮断機能の構築や特定緊急輸送道路沿道の建築物の耐震

番号	意見等	該当項目 及び考え方
		化を促進するとともに、防災機能に配慮したオープンスペースも確保していく。
55	<p>●その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・局地的に発生する突風（ダウンバースト、竜巻等）にも対策が必要。また、自治会・町内会の組織の在り方、運営については、新旧混在する市民環境では、行政が積極的にかかわらないと崩壊していくと考える。 ・国や都の対応・対策を待つのではなく、小平色を出すべき（常に上の颜色をうかがうようです。） 	B
水と緑のまちづくりの方針		
56	<p>●小平の残したいみどりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レガシーは何かと問われれば、まずは上水・用水と林（樹木）と言えると思う。これらの保存・再生がまずプランの根底にあってほしいと思う。そのうえで現存する緑道や農地を大切にしつつ、次世代・高齢者にも住みやすい町として商業化・宅地化を計画する。 ・現在水と緑をキーワードにしているが、実際には用水には水が流れていないところが多く、また水辺は美しいとは言えない。また、勝手に用水をつぶしている地主も見られる。保存樹木とはいえ、大木が簡単に切られている。外部の人にも美しい、また歴史を感じると思われる人を呼び込む街づくりをまず考えてほしい。 ・保存・再生には費用がかかる。所有者個人にのみ負担させるのは無理があるだろう。守るには市としての支援を考えるべきである。 	<p>A-2</p> <p>本市にとって「みどり」は重要な要素。みどりの保全、活用、創出に関するまちづくりの方針等を記載している。</p>
57	<p>●小平グリーンロードについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅前顔という表現があるが、小平駅前のグリーンロードは花小金井側の緑の繋がりが駅前で切れている。隣接市に働きかけ小平市の予算で「みどりつながるまち」を作ってください。 	<p>A-2</p> <p>今後の施策・取組等の推進に向けて参考とする。</p>
58	<p>●水と緑の保全と活用の際に考慮してほしい点について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・“みどり”の種類にもいろいろある。新たなみどり作りや、運動できる公園づくりも大切ですが、新たに整備して植えられた“みどり”では原風景の雑木林などに変えられないことも意識して各種“みどり”のバランスを考えた整備を 	<p>A-2</p> <p>本市にとって「みどり」は重要な要素。</p>

番号	意見等	該当項目 及び考え方
	<p>お願いしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが土を触ったり生き物を観察したり、落ち葉の循環やいろんな種類の木が共存しているのを見て学んだり、そういう感覚を全身から感じることもできる場所は、心の成長にとってとても大事である。気軽に安全に立ち入れる雑木林の保全などもお願いしたい。 P30の目標2などに、みどりならなんでも良いわけではなく、“各種のみどりを活かしながら”とわかるとより伝わるかなと思う。 	みどりの保全、活用、創出に関するまちづくりの方針等を記載している。
59	<p>●緑債の導入について</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)水と緑の「保全」と「活用」に、緑債などの具体的な取り組みを入れて欲しい。 	B
60	<p>●用水路の保全について</p> <ul style="list-style-type: none"> まちづくりの目標2に関連して、市内に流れる用水路（特に仲町~大沼町を流れる）の保護充実を提案する。 	A-2 用水路を活かした水のネットワーク形成を図る旨を記載している。
61	<p>●農地の保全について</p> <ul style="list-style-type: none"> 減少し続けている農地を後世まで残し、農業がもっと活発に市民と共に土地に根ざした農業として発展するようなシステム・方法をとって欲しい。 	A-2 農地の保全に際して市民農園の推進や援農ボランティアによる担い手づくりの仕組みづくりに関する事項を記載している。
62	<p>●玉川上水の保全について</p> <ul style="list-style-type: none"> 玉川上水の環境を守ることに對して優先順位を高めるための条例を策定する。 	B
良好な住まいづくりの方針		
63	<p>●住みよいまちづくりの方針について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「良好な住宅都市として市街地の維持・形成に向けて、敷地の細分化や住宅以外の用途の建築物の混在などを防止するため、土地区画整理事業や大規模 	A-1 良好な市街地の維持・形成、

番号	意見等	該当項目 及び考え方
	<p>開発事業などが行われる地区においては地区計画を活用するなど将来にわたる良好な住環境の維持を図ります。」この項目の削除を希望する。人口減少・高齢化、空き家・空き店舗が問題となっているなか、過去 10 年間とおなじように、市が予算を投じて、土地区画整理事業や大規模開発事業を行い、宅地化による市街地形成の準備をすることはいかなものか。人口減少、高齢化社会に対応するには、良好な住環境を形成することで、他市から人をつれてきて税収を増やすという発想ではなく、子ども世代、孫世代が小平に定住してもらえよう環境維持を目指すべき。</p>	<p>敷地の細分化や住宅以外の用途の混在等を防止するため、土地区画整理事業や地区計画を活用していくことは必要。</p>
64	<p>●空き家対策について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この 10 年で「空き家」対策を検討して欲しい。これはあくまでも素案だが、「空き家」の放置には固定と都市計画税の追徴（プラス）するとか。 ・緑が減り続け、逆に住宅が急増し、空き家まで大量に増えている現状に、非常に矛盾を感じる。大切な緑や畑をしっかりと守りつつ、空き家を活用し、住宅や資材等を無駄にせず、開発ばかりに片寄りすぎない、計画、システムを作るべき。 	B
65	<p>●人的交流の活性化について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・街づくりカフェに 2 回ほど（うち 1 回は見学会）参加させていただいたが、基本理念は良いと思う。プラスしてほしい面は、人的側面の交流の活性化をぜひとも取り込んでほしい。5-2 のいきいきと住み続けることのできる住環境の点で、さらに具体策が必要。特に人の交流、活動を促進するような土台作りが必要。スポーツ、文化、教育等で市民レベルでの活動促進である。学校レベルでは、スポーツ大会、文化祭等有るかもしれないが、だれでも参加できる市民スポーツ大会や、市民音楽祭等を年 1 回行い、文化面での交流を深め、高められるようにしてほしい。 	B
全般について		
66	<ul style="list-style-type: none"> ・「都市マス」の計画策定過程において、住民が参加することが大事。その意味で、住民は小平市都市計画の知識を必要とし、専門家や行政関係者たちは、分かりやすい形で、都市マス改定案の策定過程を住民に示す必要がある。 ・また、暗号化、文章化された都市計画図だけではなく、イメージプランや模型の形で都市マスの内容を分かりやすく示す努力が必要。 	<p>A-1</p> <p>今回の改定作業では積極的に市民参加プログラムを取り組んできた。</p>

■第4部 地域別構想

番号	意見等	該当項目 及び考え方
西地域について		
67	<p>●道路整備の見直しに関する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最近の新規格道路建設では「緑を活かす」とか「沿道の緑化」とか、緑の環境に配慮する姿勢が必ず示され、そのことで道路建設のために破壊される自然をチャラにするような塩梅にも見受けられる。しかし再整備されて造られた緑化（植樹）は、昔からの並木や雑木林とは似て非なるものである。渋滞解消の大義のために新しい道路を造り続けるより、むかしみちの再考、再整備、自然の保全に力を入れるのが温故知新ではないかと思わずにいられない。車の通れないグリーンロード、自転車も通れない玉川上水遊歩道は、これからはますます希少価値が高まる小平市の宝です。「道を譲る」というのは奥ゆかしい表現ですが、そのような宝物の道がありふれた産業道路に「道を譲る」さまはおろかしくありませんか？ ・小平大和線（小平 3・4・10 号線）の整備については、周辺住民へのアンケートでも早期実現を望む声があり、しかもアンダーパスが指示されているようで、すでに説明会を開催しているようだが、一市民として納得が出来ない。多額な費用がかかるアンダーパスという方向性を再検討して欲しい。 	<p>A-1</p> <p>道路整備にあたっては、広域的な観点、かつ市域内の円滑な交通ネットワークの形成や歩行者や自転車利用者のネットワーク形成の観点から整備を行う必要がある。今後の施策・取組等の推進に向けて参考とする。</p>
68	<p>●都市計画道路の整備に関する記載について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「市内の円滑な道路交通ネットワークを形成する都市計画道路である府中所沢線（小平 3・2・8 号線）、小川橋青梅橋線（小平 3・4・24 号線）については、西地域の風景や環境に配慮した整備を進めるよう東京都へ引き続き働きかけます。」について、以下のように具体的に記述することを希望する。都市計画マスタープランは、開発と保全の方針が記載される。両者は両立できずに、課題が残るが、その課題をクリアにしてそれでも整備が必要であるので、最大限環境に配慮をする意思表示を示すことが必要である。 <p>⇒「市内の円滑な道路交通ネットワークを形成する都市計画道路である府中所沢線（小平 3・2・8 号線）、は、小平中央公園の東側に雑木林の約半分を消失してや玉川上水と交差し、小川橋青梅橋線（小平 3・4・24 号線）についても玉川上水と交差することから、西地域の風景や環境に配慮した整備を進めるよう東京都へ引き続き働きかけます。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P61 に以下を追加して欲しい。 「小川橋青梅橋線（小平 3・4・24 号線）とともに整備される新五日市街道線（小平 3・3・3 号線）の一部区間の整備によって、小川用水の彫刻の谷緑 	<p>A-1</p> <p>道路整備にあたっては、「道路・公共交通ネットワーク等の方針」等に地域の特性や環境への配慮に関して記載している。</p>

番号	意見等	該当項目及び考え方
	<p>道が暗渠となる部分ができるため、その整備については、環境に配慮した整備を進めるように東京都に引き続き働きかけます。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西地域は早めに道路を整備しないと他の市とのからみがあるからすすめた方が良い。 	
69	<p>●市街地再開発事業の見直しに関する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小川駅西口再開発について。タワーマンションを核したところで、小川の「顔」や小川の「未来のまち」を現すものになるとは思えない。 ・小川駅西口地区の市街地再開発事業について、小川駅前周辺地区まちづくりビジョンは再開発準備組合以外の自治会、商工会、ブリジストンなどを交えてつくって、方向性を確認しているの、狭い範囲ではあるが民意を確認して、丁寧に仕事を進めていると思う。但し、H26年の9月の小平市議会まちづくり特別検討委員会で、組合施行による高層タワーを住宅として販売することによって、再開発に必要な工事費用を捻出することについて、建設費高騰で、頓挫したはず。なぜ、懲りずに同じ方向での検討を続けているのか？再度、高層タワーでの計画を進めて、事業者採算があわないと判断されたらどうなるか、さらに検討期間が延びてしまう。平成4年には、協議会ができて検討がはじまったと認識しています。何年、市の予算を投じているのか？修正案として、「小川駅前周辺地区まちづくりビジョン」で示された方向性での検討を中心としながらも、都市計画決定されている駅前広場および乗り入れ道路の小平3・4・12の施行についての整備も併せて検討するなどの表現にして柔軟な対応ができるようにして欲しい。 ・農地の維持が難しい今、どんどん宅地化されているが、これに対しても歯止めをかける政策が必要。小川駅西口再開発関してもハコモノありきの開発を見直すべき。高層マンションは一時プラスになる施策かもしれないが、30年、50年後までの事を考えると負の遺産になる可能性が高い。市もよかれと思って政策を実施していると思うが、現状では結果的にそこに住む市民の利益につながらない、むしろ残念な結果になっていると思う。マスタープランは現実を精査し、これからの時代を見すえた持続可能なプランへと変更するべきだと思う。 	<p>A-1</p> <p>地域別構想に基づくまちづくりに向けて、今後の施策・取組等の推進に向けて参考とする。</p>
70	<p>●土地区画整理事業に関する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「小川四番土地区画整理事業が検討されている地区は、農地がもたらすみどりを意識した住環境の形成に配慮します。」この項目の削除を希望する。このエリア、北は、西武拝島線で行き止まりと、西は教習所で行き止まり、南 	<p>A-1</p> <p>具体の計画については検討中。今後の施</p>

番号	意見等	該当項目 及び考え方
	<p>は、青梅街道に囲まれた狭いエリアである。ここで使う道路や公園は、北西部にアプローチできないため公共性があるとは言えない。この 1 項をもって、都市計画マスタープランに書かれているから進めるといわれるのなら、その合理性を市のホームページなどで、きちんと市民に説明することを約束すべき。もし地権者から要請があるなら、このような土地こそ、農業公園として保存すべきではないか？</p>	<p>策・取組等の推進に向けて参考とする。</p>
71	<p>●みどりを活かした生活空間の形成に関する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「小川用水に平行した「たから道」や歴史的な資産である新堀用水の「胎内堀」などの小平のふるさとの風景の保全を図ります。」について、歴史的な資産である新堀用水の「胎内堀」は削除するか、別の表現にして欲しい。現実には、都営中島町アパートの北部の胎内堀が、コンクリートで補強され、3D プリンターでつくるミニチュアを展示する方向で検討されていると聞いている。事実の確認を。そうであれば、胎内堀の保全は不可能であり、無理して書くことはない。 	<p>A-2</p> <p>記載のとおり、小平の風景の保全に向けた施策を推進する。</p>
72	<p>●(P61) のイメージパースについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3・2・8 号線で分断された街の風景としか見えない。玉川上水に掛っているのはもはや橋ではなく、道路につぶされた玉川上水である。少し左側まで入れば現府中街道が入るのではないか。道路が出来るころには自動車が少なくなっているのではないか。本当にこの道路は必要なのか 	<p>A-1</p> <p>広域的な道路ネットワークの形成上、必要な道路であり、今後の施策・取組等の推進に向けて参考とする。</p>
73	<p>●中島町の焼却施設建替えについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(P62) まちづくりに市民参加を掲げる以上、中島町の焼却施設建て替えについてもその検討委員会には市民公募の委員を入れるのが当然。すでに設けられた「懇談会」に市民公募委員が入っていないことは大問題で、ただちに市民公募を実施するよう求める。 	<p>B</p>
74	<p>●鷹の台駅周辺について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鷹の台はバス停やタクシー乗り場が無い時点でダメだと思うのでそこら辺ができればと思います。 ・鉄道の駅中心に町作りするのは良いですね。他の地域から町に初めて来るのは鉄道が多いので、町の第一印象は駅前になることが多いので、鷹の台の駅前が活性化出来れば良いですね。学生街という町にはなっていないのでこの機 	<p>A-2</p> <p>鉄道駅を中心に生活利便性を高めるまちづくりを進める旨を記載している。</p>

番号	意見等	該当項目 及び考え方
	<p>会に学生街にしてみてもいいか。鷹の台の特徴の公園を憩い場としてもつと整備して利用できるようにしたい。</p> <p>(中央公園は運動場と大学の通学路) って感じなので</p>	
75	<p>●その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小川はブリヂストンの縮小があるので空地があるようならブリヂストンから土地を借りて保育園なり作るなどした方が良くと思います。 	B
中央地域について		
76	<p>●市街地再開発事業の見直しに関する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小平駅北口にロータリーを設け、バスも乗り入れられるようにするなど整備には賛成だが、タワー型のマンションは、小平霊園とつながる、のどかな緑と広い空のある雰囲気と合わないので反対。せめて5階ぐらいのゆったりとした住宅地の広がる駅前にしてほしい。 ・開かずの踏切対策とあるが、立体交差の計画がない以上、踏切の開く時間は変わらないはず。どのような改善策がありうるのか、示すべき。 ・東京街道から駅に通じる道路、駅前ロータリーの整備のみでよい。 ・業者の利益を考えてのタワーマンションはいらない。 ・現在すんでいる人が健康で快適な生活ができることを第一に考えるべき。 ・代々受けつぎ、これからも受けついでいきたいと考えている個人の宅地は簡単に手離せるものではない。 ・ここに開発が必要なのは納得する。周辺住民の希望でもあり、時々周辺を利用する私も賛成。しかし要望する街のイメージはロータリーが出来周辺に商店が取り囲む光景。そこには商店の人も住み、周辺には優良な低層住宅があれば良い。高層ではなくても低層高密度住宅という手もある。 ・高層住宅の下に商業施設という図柄は、もう古いし、採算も悪いはず。施工価格にコストを掛けるのではなく、設計コストにかければみんなから喜ばれる環境が生まれるだろう。 ・小平駅北口周辺の開発については、平成27年度までは都市計画道路事業による整備を計画されていた。しかし、平成27年に都市再開発法第2条の3の第2項地区?として、東京都の「都市再開発の方針」に定める促進地区に指定されている。また、同年に小平駅北口地区市街地再開発準備組合が設立した。この二つの大きな変化について、再開発対象予定区域内に住む土地所有者には事前説明も無いまま、市と準備組合関係者の一方的な考えにより進められている。このことは「信義誠実の原則」に反する重大問題であることは 	A-1 地域別構想に基づくまちづくりに向けて、今後の施策・取組等の推進に向けて参考とする。

番号	意見等	該当項目 及び考え方
	<p>明白である。更に「都市計画マスタープラン改定」（素案）では小平駅北口地区市街地開発事業は組合施行であり、現時点では組合設立のための東京都への認可申請に必要な要件が整っていないにも係わらず、あたかも事業が実現するかのような文体で構成されています。駅前にタワー型の共同住宅を建設することは何時、誰が決めたのか。今、市がすべきことは、都市計画法第12条関連に規定されている、小平駅北口周辺（都計道3・4・14.3・4・19を含む10ha程）の整備・開発・保全の方針を定める地区整備計画を策定することである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再開発準備組合は、地権者の集まりであるが、民間の任意団体です。なぜ民間の任意団体の計画が、そのまま、市のマスタープランに記載される再開発の方針になるような記載なのか？ ・小平霊園のある駅、静かな雰囲気を大事にしたいと思う市民感情もあるのではないかと。なぜ、民間活力をつかった市街地再開発事業1本ですすめているのか？初期段階から、再開発エリアの地権者および、周辺の市民へのアンケートをとるなどニーズの洗い出しをしっかりと行って方向性を決めるべきだった。 ・修正案として以下を要望する。 ⇒「小平駅北口地区では、平成27年9月に市街地再開発準備組合が設立され、市街地再開発事業の実現に向けた検討が進められているが、再開発準備組合の案を住民に説明し住民の意見も取り入れて、柔軟な対応で再開発の促進を図ります。」 ・（P71）「駅周辺には比較的若い世代が居住している傾向があるものの、高度利用が図られていないなど駅前としての優位性を活かしてきていないため、若い世代が求める駅前における住宅ニーズを十分に満たしていない状況があります。」とあるが、これは、H26、H27アンケートからも、若い世代の駅前における住宅ニーズがあることは読み取れない。一般論としてもあまり聞かない話です。根拠があるなら根拠を示して記載すべき。根拠がないなら、削除を希望する。 ・3・4・19号線について、小平駅前+東京街道部分~霊園+東久留米部分の統一性・連動性（行政）がないと実現は不可能だと思う。その場合、まず優先順位として駅前の整備が必須である。駅前の街路事業計画（なんと50年以上前の）がよいのか再開発がよいのか、合わせた考え、もしくは全然違う案（第3案）がないのか、見直しして頂きたい。 ・小平と言えば霊園と言われる小平駅は霊園の表玄関である。北口にタワー型 	

番号	意見等	該当項目 及び考え方
	(高層)の共同住宅は景観を損なう。土地の高度利用を優先せず、本来の住み良いまちづくりを再検討することを望む。	
77	<p>●良好なみどりの保全・活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(文中の記載に関連して)なぜ、農業公園と併せて、小平3・3・3を作るのか?このエリアは、東京都からも小平3・3・3の優先整備路線に指定されていない。それにも係わらず、唐突に農業公園とともに、小平3・3・3を検討すると記載することが理解できない。都に予算をつけるからやれ、農業公園とバーターにして、つくれと言われてからとしか思えないような不自然さがある。意味不明の説明で、都市計画マスタープランにねじ込むようなやり方は、断固として反対する ・また、農業公園、この位置につくるのは何故か?このエリアの農家は、ぶどう、なしをつくっており、このエリアのたかの街道は、こだいらフルーツ通りと呼んでいる人がいるくらいの観光資源にもなっている場所です。農業公園にしてしまったら、果物の栽培は維持出来るのか?農業公園をつくることには賛成するが、この場所をつかうことには賛同出来ない。 ・個人的にはアダプト制度は課題が多いと思っているが、農業公園の保全を市民参加でできないか。 ・幹線道路と農業公園とで、どのように調和がとれた風景になるのか、また健康増進につながるのかは疑問。 ・そのため、以下の追加を提案します。 ⇒「農業公園の保全・活用は市民参加ですすすめます。」 ⇒「農業公園では、けやきや雑木の林、茶の防風垣等小平の原風景を再現します。」 	A-1 中央地域のまちづくりの方針の実現に向けて、今後の施策・取組等の推進に向けて参考とする。
78	<p>●再開発事業とみどりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再開発についても幹線道路の整備についても、「周辺のみどりとの調和に配慮しつつ」とあるが、「配慮」という言葉は弱い。「調和を図りつつ」と提案する。 	A-1 左記について検討する。
79	<p>●民間活力を活かした新たな拠点づくりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・景観という点では、高層の建物はみどりとの調和を破壊する。再開発の手法として、低層低容積再開発、身の丈にあった再開発というものが最近提案されているため、市として将来を見据えた適切なアドバイスを望む。 	A-1 地域別構想に基づくまちづくりに向けて、今後の施策・取組等の推進に向けて

番号	意見等	該当項目 及び考え方
		参考とする。
80	<ul style="list-style-type: none"> 小平市では、開発については、開発区域から 30m または 50m の範囲内に居住している「周辺住民」しか説明会に参加できず他の市民は意見も言えない。狛江市まちづくり条例では、周辺住民だけでなく「近隣市民および市民」に意見を言う権利がある。小平市の「周辺住民」対象の「ガイドブックー開発事業に関する説明を受けるにあたってー」を見ても、向いている方向が、「開発ありき」という感じを受ける。再開発区域の住民とそうでない住民との接点をもっとあっても良いのではないか。 	B
81	<ul style="list-style-type: none"> ●道路整備に関する意見 小平駅東久留米線（小平 3・4・19 号線）の路線整備は理解できる。同時に防災に関わる多摩済生病院への道路整備の実施を望む。 	A-2 中央地域のまちづくりの方針に記載している。
東地域について		
82	<ul style="list-style-type: none"> ●都市計画道路の整備に関する記載について 五日市街道と青梅街道の間がそれほど遠くないのに、住民に立ち退きを強制し、鈴天商店街など昔ながらの風情のある商店街をつぶしてまで、3・3・3号線を優先して作る必要性はない。古い道路計画を見直しもしないのは行政の怠慢。市民の生活を守るため、しっかり都と相談し、「都民ファースト」を掲げる知事が道路計画も見直すよう真剣に働きかけて欲しい。 玉川上水やグリーンロードを分断する都市計画道路は慎重な見直しが必要。これにより花小金井の光が丘商店街は壊滅的な影響を受ける。道路よりも活気ある商店街の維持にリソースを割くべき。 	A-1 地域別構想に基づくまちづくりに向けて、今後の施策・取組等の推進に向けて参考とする。
83	<ul style="list-style-type: none"> 新五日市街道線の新小金井街道以東が、優先整備路線になる第四次事業化計画の審議の過程で、小平市は、東京都に意見を述べていない。小平市の鈴天商店街、光が丘商店街、小平グリーンロード、これらは小平市民にとって大きな財産であり、財産をつぶしてしまうことを知らずに、東京都に意見をしなかったわけではないはず。小平市都市開発部として、自分たちが第四次事業化計画で意見をしなかったのですから、責任をもって近隣住民へ対応下さることを希望する。以下、修正要望。 ⇒「地域住民とともに行っていく必要があります。」を「地域住民とともに行っていきます。」に修正。 	A-1 ご意見の箇所は、「花小金井駅周辺地区の状況」の項目に関する内容であるため、参考意見とします。

番号	意見等	該当項目 及び考え方
84	<p>●にぎわい拠点としての充実・強化について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 駅南口の商店街をもっと活性化させたい。人を呼び込める造りにしてほしい。 ・ マンション、戸建てが増え、人口が増加するスピードと量に比べ、店やパブリックな場所が追いついていないと感じる。 	<p>A-2</p> <p>鉄道駅を中心に生活利便性を高めるまちづくりを進める旨を記載している。</p>
85	<p>●農業（農地保全）に関する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ マンションばかり増えて緑が減っている気がする。（小平在住40年以上の身として）みどりの町、東京のプチ田舎をうたっているのにそれでは矛盾していないか。農業が少しずつ若者に流行ってきている今、緑、農業をもっと大切にしていかなければいけないと思う。 	<p>A-2</p> <p>農地の保全については「水と緑のまちづくりの方針」に記載している。</p>
86	<p>●良好なみどりの空間の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (P77) 鈴木遺跡は4万年前にも遡る旧石器の貴重な遺跡であり、国指定史跡化をぜひ実現し、資料館もプレハブではなくお金をかけて立派なものを作って欲しい。発掘遺跡を含む一帯を原っぱ広場にするのは良い考えだと思う。 	<p>A-2</p> <p>今後の施策・取組等の推進に向けて参考とする。</p>
87	<p>●その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 西武線の各路線の整備（地下化/高架化）については、早期に実現してもらいたい。 ・ プランの構想は素晴らしいが、これらを実現するための財政的なことが全く触れられておらず、絵に描いた餅にならないよう一市民としても頑張りたいと思う。 	<p>B</p>
3 地域共通		
88	<p>●市街地再開発事業に関する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小川駅西口、小平駅北口にはそれぞれ市街地再開発事業が計画されているが、その計画には超高層タワー型の複合住宅施設を中心に据えるという方法の一つだけが提示されている。小平市全体のまちづくりの観点からこの方法を抜本的に見直すべき。 ・ 「高度に集約したまち」の発想は、これから迎える高齢化社会のあり方に適合すると思われるが、商業施設や公共公益施設などが入った超高層タワー型の複合住宅施設を中心に据えるという方法は、人口減少が起こる日本の都市空間においては財政的にも危ういものだと想像でき、また小平市のまちづくりの目的や理念からもかけ離れ、市が本来持っている本来の活力を削ぐ結果 	<p>A-1</p> <p>まちの将来像やまちづくりの目標の実現に向けた事業を進めている。</p> <p>具体的なお意見については、地域別構</p>

番号	意見等	該当項目 及び考え方
	<p>となりかねない。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 一部の地権者や、開発によって利益を得る事業者を中心とした組合による市街地再開発事業として推進させる方法が、たいへん狭い範囲での利権の幻想に踊らされてるだけの結果を導き、本来のまちづくりを阻害する要因となっているように思われる。 • そのような部分最適化、あるいは本来のまちづくりを無視した時間的な延命措置としての開発は、抜本的なまちづくりのビジョンにはなりえない。 • 人口減少のなかでコンパクトシティの方策を背景にしつつ、原点から検討する小平市固有の市街地再開発が必要だと思う。 • 国や都からの補助金を前提とした超高層タワー型の施設を作ることとは異なって、高齢化社会の中に住みやすい本来の「高度に集約したまち」の形を設計することはたいへん困難であるが、それを見つけることに大きな価値がある。その困難を乗り越えた結果から、自ずと小平への集客が起こるのではないのでしょうか。 • 駅前開発等によって、大きなビルを建てることは考え直すべき。町のあり方は全体の意見もふまえて、慎重に考えたい。 	<p>想に基づくまちづくりに向けて、今後の施策・取組等の推進に向けて参考とする。</p>

■第5部 都市計画マスタープランの推進

番号	意見等	該当項目及び考え方
89	<p>●全般について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「マスタープランの推進」この部分は本来第3部の「全体構想と実現に向けた取組」の冒頭に來るべきだと思ふ。それにより、各部の内容も変わってくる。 ・「市民生活に身近な地区」の考え方の冒頭に「本マスタープランでは、全体構想で市全体のめざすべき将来像やその実現に向けたまちづくり方針などを示しました」とあるが、その部分にこそ市民が入らなければならないと思ふ。 	<p>A-2</p> <p>ご指摘の記載箇所については、見直し検討委員会で議論を重ねた上で、第5部に記載している。</p>
90	<p>●市民とともにまちづくりを進める上での意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市と市民が一体となって計画することの難しさはあると思ふが、それぞれに変わらなければならない。この計画をつくるにあたってもっと市民を信用して頂き、参画する方法を考えませんか。具体的な案を皆持っています。机の向こう側に座るのではなく、同じ側に座って計画したいと思ふ。運営も市と市民で行えばよい。 	<p>A-1</p> <p>今後の施策・取組等の推進に向けて参考とする。</p>
91	<p>●協働のまちづくりの推進について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加と協働のありかたを基本的に考えなおす。言葉の上では市民の参加と協働を提起しているが、現在の本質は参加はさせるが決定には参加させない。決定は行政の専権、裁量権である。これが現状ではありませんか。 ・「住民が参加する事業は住民にも決定権を与えよ」もちろん、住民が決定に参加する、参加できるようにするには、多岐の観点から住民に学習が必要です。この学習を住民と行政が協力して準備すべき。 	<p>A-1</p> <p>協働のまちづくりに関する市の基本的な考え方は第5部に記載している。</p>
92	<p>●小平市民提案型まちづくり条例の活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6年間で1度も使われていない（小川西町4丁目推進地区まちづくり協議会はモデルケースということですが入りますか？）市民提案型まちづくり条例を、この先10年間このまま推し進めて、果たして市民参加が促されるのだろうか？という疑問がある ・”知っている”人は、まちづくりに意欲があり、何かこの条例を活用して実現しようと思ひ、自分で情報を取りに行つた人が多いと思ふので、その人たちでも『難しい』という状況。 ・アンケートの『進めることが難しい』の理由を把握しているなら明記して、市民提案型まちづくり条例の改善を計画に入れてほしい。でないと、周知の時間と労力が無意味なものになりそう。活用されない要因が明確でないなら、 	<p>A-1</p> <p>今後、まちづくり条例の活用促進の方策を検討する際の参考意見とする。</p>

番号	意見等	該当項目 及び考え方
	<p>今ある市民団体や要望を持っている人に、なぜ使わないのかの理由の調査も必要だと思う。ともかく、進めることを難しくさせている何かがあるから、改善は必須だと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「小平市民提案型まちづくり条例の活用」に、市民提案型まちづくり条例の内容の改定を明記して、活用されるものにしてほしい。 ・市民提案型まちづくり条例では、「市民の”ちから”を活かせるまちをつくる」というより、「市民の利益を自分たちで守れる」というほうに近いのではないか。 ・市民提案型まちづくり条例をこのまま推し進めるよりは、公園を作る時に中に作る遊具を近所の親子で会議して決める、地域の都市計画の計画段階からの意見参加ができる、などの、簡単に参加できて意見も反映されやすい取り組みに、いかに多くの人に関わってもらえるかの方が、市民の”ちから”や市民参加に興味を引き出すのに効果的ではないか。そういう活動のほうが市民も参加したいと思っているのではないか？そちらに力を入れたほうが、全体にプラスの方向に向くと思う。 ・都市マスでは市民提案型まちづくり条例の活用が大きく割合を占めていて、メインになってしまっている印象を受ける。今までもそういう場を作ってきてこれからも力を入れていくということであればとてもいいと思うので、具体的な計画に意見が反映される仕組みにも力を入れるとイメージがつくように書いてほしい。 	
93	<ul style="list-style-type: none"> ●市民のまちづくり学習等の機会の提供について ・セミナーやフォーラムも必要だと思うが、一部のまちづくりに興味がある人しか参加しないのは、自分の勉強で終わるのが一つの要因だと思う。 ・もっと広い範囲の人、今まで来なかった層の人たちに興味を持たせるには、実際に意見が採用されて実現したり、具体的なものにつながっていく場の提供ではないか。 ・『協働のまちづくりの推進』を掲げるなら、興味を持つまでの誘導は取り組みとして必要だと思う。機会の提供ではなく、『効果的な』機会の提供をアイデアを出してめざしていきたいところだと思う。 	<p>A-2</p> <p>市民のまちづくりへの関心を高める取組を引き続き検討・実践していく旨を記載している。</p>
94	<ul style="list-style-type: none"> ●市民主体の地区まちづくりの進め方について ・マスタープランを作成しただけで終わっては、これまでのように、行政の手の届かないところでマスタープランにお構いなく小平市民が小平市を変化させていく。また、マスタープランは縦割り行政の結集のように見える。それでは適切なまちづくりはすすめられない。 	<p>A-1</p> <p>改定にあたって行ってきた市民参加の取組を参考に、</p>

番号	意見等	該当項目 及び考え方
	<ul style="list-style-type: none"> ・「わたしたちのまちのつくり方」という団体で、「小平市都市計画マスタープランへの市民提案」を作成し市に提出した。そこでは、「市民主体のまちづくりを実現するために」市民と行政をつなぐ「総合窓口」と「市民会議」制度の提案をしている。次のマスタープランに向けてすぐに検討をお願いしたい。 ・市民の意見を反映させるしくみを改善する。より早い段階で、より根本的な計画について意見を聞くべき。 ・マスタープランの目標とする平成 38 年度までの 10 か年は様々な変革が予想される。特に、2020 年（平成 32）に開催される東京オリンピック後の経済の行方、それが小平にどのような影響を与えるのか。企業の撤退や税収減等による計画の実現性への不安がある。そのため、「見直しの必要が生じた場合には・・・市民参加により見直し作業を進めます。」とあるが、もう少し具体的に示して欲しい。 ・小平市のまちづくりが都の計画と乖離する場合は、市として都に申し立て、市のまちづくりを説明し、都とよりよい解決策に向けて交渉する。 	<p>引き続き市民、行政の協働のまちづくりのきっかけとしていく。</p>
95	<p>●その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標、スローガンは大変すばらしいものだと感じた。内容もよくまとまっている。しかしながらこの目標を達成するための成果への道筋が曖昧なため、結局目標とはかけ離れた結果になることが往々にしてある。目標を具体化させるプロセスを明確にし、一応やっておきましたという形式的なものではない住民参加の取り組みを行った上で本当に人に優しい市民が主体となった街づくりを実行できる体制について明確にしていきたい。 	<p>A-1 マスタープランに基づき各分野別の計画や施策等により、具体的な取り組みを進める。</p>

■その他（全般に関わること等）

番号	意見等	該当項目 及び考え方
96	<p>●全体的に抽象的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラン全般に美化・抽象的な表現が多く、数値目標化は出来ないものでしょうか。 ・いつまで、いくらにする、どのように等、数値の示しがほしい。 ・全体に漠然としていて具体的に何をするのかわかりにくい。 ・現在、実績の検証、それに基づくマスタープランの筈。所謂、PDCAの考察が必要ではないか。 ・シビックゾーンなどと一般的でないわかりにくいお役所ことばを使用しないでほしい。もっと平易で正しい日本語を使用していただきたい。 	<p>A-1</p> <p>都市MPとは「都市計画に関する基本的方針」を示すものであり、数値目標とは個別計画に委ねられるものであると考える。</p>
97	<ul style="list-style-type: none"> ・全体に爆破力が不足していないか。小平市をどうして不死鳥のごとく羽ばたく設定が感じられない。 ・小平市は学園都市なので学生力を活用するべき。 	<p>B</p>
98	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車や自動車を置いて買い物をするスペースが少ない。 ・幹線道路沿い（特に青梅街道）に店が少なく田舎っぽくて不便。 	<p>B</p>
99	<p>●新たな価値観にチャレンジすることが必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「都市マス」は、従来からの価値観をかえ「挑戦」しようというものである。そこで次のような意見を述べる。 ①市民も自分自身の問題として考え なければならぬ感触をもつだろうと、新しい時代の「まち」は小平市民の自覚と責任でつくってゆく・それを呼び越す。 ②ハードとソフトを含めた総合的な「まち」を整え、過程や方法をトータルに考える。 ※関連してイノベーション/リノベーションを推進する。 ③地域（住民・行政・事業者）が自ら主体性をもち、小平市の地域文化、個性ある風土を大切にして、誇りと愛着をもてる「まち」をつくってゆく。 ④安心して生活できる「住むに値するこだいらを目指し」質的な価値をつくりだす。 ⑤互いに個性や自由を尊重し、新しい社会と仕組み、こだいらの「都市マス」をつくる。 ⑥住民全体が共同体の一員として生活していることを自覚し、地域への責任をもって参加し、共働を担う「ヒトづくり」をすすめる。 ⑦理念や建前だけでなく、より「実践的」なまちを目指す。 	<p>B</p>

番号	意見等	該当項目 及び考え方
	<p>●「都市マス」づくりは、理屈や理念にとまらず、なんらかの実践を伴う意味が込められています。「まちづくり」には、市民の実践的な行動を、身近な単位から考え、そこをよりよくしてゆくことです。</p> <p>市民が求めている「都市マス」や行政サービス（公共施設）とは何か...？ どのようにすれば、利便性を高めることができるか...？</p> <p>●「イノベーション」を起こすためには、新たな都市マスの施策を検討する必要がありますということです。</p> <p>要は、市民の効用を高める方法を考え、これまでにない都市ビジョンの決定法を生み出し、また、市民の都合に合わせて「都市マス」の形態を変えたりし、どんな戦略がいいのか、小平市の置かれた現状→課題を適切に組み合わせて、イノベーションを成功に導く可能性高まることにつながります。</p> <p>実践面では、日常的な取り組みやすいことを自分たちにとってよりよくしていく努力が「小平市都市計画マスタープラン」の基礎です。</p> <p>※3・2・8/3・3・3号線等の周辺のまちづくりの推進</p> <p>①都市計画道路（ ）号線の整備にあわせて、主要幹線道路のまちづくりを生かした、安全で住みやすい小平の住宅環境の形成に努める。</p> <p>②小平駅北口・小川駅西口周辺まちづくりの推進。</p> <p>③土地利用政策の転換と、適切な利用の誘導。</p> <p>④空き家・空き地の適正管理・利用活動。</p> <p>⑤現状の土地利用に即した土地利用の見直し。</p> <p>⑥住居専用地域における住環境の保全。</p> <p>⑦地域環境や自然環境の保全に対応したまちづくり。</p> <p>「都市マス」の素案に示された中間のまとめは、提案という形で示されました。その中身ですが小平の立地も含めほぼ内容は決定されており、あとは、市民や関係者に説明して理解を求め、実行に移すというパターンです。</p> <p>これら施策の中身について、パブコメを実施するものの、住民の意見を取り上げるためだけでなく、意見を聞いて住民の理解を深める目的なので、現実を踏まえた（対策・解決案）実効の進行管理を推進していくことです。</p>	
100	<p>●一人ひとりの意識改革が重要</p> <p>・まちづくりよりひとりひとりの意識も大切。自転車のルールや公園の使いかた、タバコのマナーなど。意識啓発やマナー向上が大切ではないか。</p>	B
101	<p>●経営体としての持続性を図る視点が重要</p> <p>・経営体としての持続性をどう担保するのか？将来の歳出増、歳入減を想起させる報告内容だが、「みどりつながる快適生活都市」を目指すことで、小平市の経営体としての持続性を担保できるのかどうかよくわからない。歳出の話ばかりで、歳入増に繋がる話が全くない。「働きやすい、働く人が住みや</p>	B

番号	意見等	該当項目 及び考え方
	すいまちづくり」を掲げて、生産者人口増・歳入増を図ったらどうだろうか？	
102	<p>●新たな産業振興の視点が重要</p> <ul style="list-style-type: none"> 小平市のまちづくりにフィットした、新たな産業振興策が必要。従来通りブリヂストンなどの大企業の工場・研究所を想定しているが、小平市の「プチ田舎」にフィットした先端型・ソフトウェア型の中小企業の誘致を検討したらどうだろうか？インキュベーションセンターや企業のサテライトオフィスの設置も検討課題だ。大学との連携も重要。市内に特色のある大学がありながら活かせていない。産学公共同で対策が必要だ。 	B
103	<p>●改定作業の進め方に関する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 市役所の都合が優先されていて、市民の意見を反映しにくい進め方になっているのではないかと。その結果が、アンケート調査の回答率の低さ、まちづくりカフェやまちづくりサロンの来場者の少なさに表れていると思う。 市民との接点を増やそうと努力していることはわかるが、市民と意見交換する形で検討を進めないで、市民にとっては形作りのように感じられる。 今回の素案への意見募集も年末年始の忙しい時期に実施するというのでは、特定の市民からの限られた意見しか集められないと思う。 市役所と市長が関連する計画を総合的に、市民にアピールする必要があるのではないかと。 市民が理解した上で意見交換ができないのでは、市民参加の効果が期待できず残念。 市民にとってとても重要なプランにも関わらず、説明や意見を求める機会が少ない。仕事をしていたり、子育てや介護をしている一般市民には十分に情報が届いているとは思えない。 イベント的に説明会を開催したり、メンバーを限定した検討委員会を設けるのではなく、広く市民との協議、対話の時間を持つ窓口や機会の必要性を感じる。 PR 活動はしているものの、都市計画マスタープランに対する市民の関心は低いと言わざるを得ない。私は、小平3・2・8の住民投票運動に関わったが、市民の皆さんは関心が低いというより、「そんな道路が計画されているなんて知らなかった」とうのが実態である。市当局は、「なぜ市民の関心が低いのか」「どうすれば関心を高めることができ、意見を述べることができるのか」について市民とともに検証し、10年先を、さらにその先を見据えたまちづくりのありかたを市民とともに考え、実践する組織をつくることから始めてもらいたい。 	<p>A-1</p> <p>H26年度より約3か年に渡り、市民参加により多くの市民の方々からご意見をお聞きしながら改定作業に取り組んできた。いただいたご意見は今後の取組みの参考とする。</p>
104	<ul style="list-style-type: none"> 統計などの数字にとらわれすぎている。もっと市民の知恵を吸い取り、通り 	B

番号	意見等	該当項目 及び考え方
	<p>一遍の流れを変えうるような企画を考えてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 小平は緑が豊かなところが一番、この特徴を守り抜く姿勢。計画のある道路を全部作ったら小平の良さが半減する。計画の段階で市民の声を取り入れ、ゆったりとした街づくりをするべき。 おしゃれなブティック、カフェや、文化的な図書館、画廊、美大生が活躍できるような工房がある複合施設を小川駅前に作り、再開発。趣味的な買い物は都内や立川、国分寺でしている人が多いが、地元でそうした買い物をしてお金を落とせるようにする。そうした商業施設を積極的に誘致する。 箱モノの縮小や統合は仕方ない。寧ろ建築費用の掛からないプレーパークなどを充実させて絆づくりをし、小平で子育てしたいと思う若い世代を呼び込む。学童保育にも活用する。 地域で子育てする仕組みを積極的に取り入れることが大切。白梅学園大など知見のある大学と連携することが大事。 一橋大学小平校は一部しか使われておらず、とてももったいない。国の施設だが、有効に使えるように交渉はできないのか？ これからも小平で生活していきたいと思えるような街にしていくことが必要。そのためには人材育成とあわせて、市民が街づくりに参加して当事者意識を持つことが大事。 必要があれば、役所の組織の再編も必要ではないか。 	
105	<ul style="list-style-type: none"> みんなが目標を共有して、具体的実現に市民の力が向くと素晴らしいと思うので、マスタープラン制定後も続けて周知をお願いしたい。認知が低すぎるとせっかく良い目標でももったいない。今までの周知の仕方では効果がなければ、別の方法に大幅に変えるくらいの努力で。 役所全体で気になる事ですが、広報を読まないから仕方ないのではなく、読ませる工夫をする必要がある。都市マスの存在も知っていて読まないのならまだ良いけど、存在を知らないのはちょっとまずい。アイデア必要でしたら一緒に考えるので教えてください。応援しています。 	A-1 今後の施策・取組等の推進に向けて参考とする。
106	<p>●おしゃれな店が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> おしゃれなお店が少なく、人を呼び寄せるには今一つと感じている。狭山緑道沿いにはいくつかのお洒落なカフェがあるが、もっとそのような店を積極的に誘致できないか。 	B
107	<p>●公共施設について</p> <ul style="list-style-type: none"> 公共施設については、耐用年数ごとに考えるのではなく、地域ごとに考えたほうがいいのか。十分に情報公開し、説明し、住民とともに検討して解決策を模索する場を作る。市民との共働なしには解決は不可能ではない 	B

番号	意見等	該当項目 及び考え方
	か。	
108	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもに配慮したまちづくりが必要 ・全体として、子どものための配慮が少ないように思う。交通の便がよく、これからも若い世帯が増えるはずなので、児童館のような、子どもや中高生が集って遊んだり、活動したり交流したりできるようなスペースを、まちづくりの中で考えるべき。 ・公園や学童地域センターなど子どもの環境に関して配慮していくような方向性を打ち出す。 	B
109	<ul style="list-style-type: none"> ●その他 ・小平市長小林正則様が年頭にあたり市の魅力を高めるため小川西口、小平駅北口再開発に道筋をつけたいと考えている様子。又、私の住んでいる付近では、小平 3・4・24 小川橋青梅橋線の工事がそろそろ始まる為、立退く家の人達は慌しく少しずつ小平のまち作りも動き出している気配。あと 10 年、30 年過には大きく様変わりするだろうと思っている。小平の最大の魅力は玉川上水の自然の様子、四季折々の変化する様子は深呼吸したくなる空気が漂っている所ではないか。私も後期高齢者ですし、世代交代致し、若い人達にバトンタッチ致したく思う。陰ながらマスタープランを見守っていきたい。 	B
110	<ul style="list-style-type: none"> ・緑、道路のネットワークで、歩け歩け大会や、コミュニティバス等が実施されています。 ・さらに進めるため、各拠点駅を結ぶ、自転車、遊歩道の整備（車は緊急用のみ）をする。途中には休憩所、トイレも作り、市の農作物のミニ販売書等も作り、市民の交流を図れば、楽しい街づくりになると思う。 ・西武鉄道の協力で、市内循環切符で一日市内の駅で乗り降りしても 500 円等の企画をする。 ・コミュニティバスとの連携も図り、市内を自由に行き来できるようにする。友人や、お母さん方の交流が図りやすくなるのでは。 ・市からの企画や情報発信により、それが市民の自主的な組織作りにつながり、そこからいろいろな活動が活発になっていけば、将来は明るいと思う。 	B
111	<ul style="list-style-type: none"> ・みどりがつなぐコミュニティを創造することを希望する。 ・小平市は玉川上水など歴史的に人と自然が関わる中で「開発」してきた地域自然資源が既にあり、この資源をこれまでのように壊すだけの「開発」ではなく、活かしていく「開発」として価値転換していきましょう。 	B

番号	意見等	該当項目 及び考え方
112	<ul style="list-style-type: none"> ・すでに、東京都や市が制定した、「決まりごと」の中で、暮らしの不便さを意見するジレンマを感じている。まず今の情報開示を見直すべき。 ・市民は、外の業者が入る複合施設より、地域に持続可能な雇用を小平市に作ってほしい。 	B
113	<ul style="list-style-type: none"> ・都市の環境倫理の観点から小平市のまち歩きをした。都市の中に農地・緑地が多く、よいまちだと思う。このよさを壊すことなく、維持していただきたい。 ・都市の中の自然を壊しておきながら、子どもたちに「環境教育」とか「自然保護」とかを訴えても説得力がない。玉川上水など、他の地域から見るとうらやましい環境であり、それを壊すことは地域の魅力を失わせることである。グリーンロードの利用率は素晴らしく、市民にとってなくてはならない環境である。このような市民の生活に密着した環境を改変することは、慎重にならなければならない。 ・地域の個性や魅力は、歴史をいかに反映しているかによる。小平の歴史をふまえた個性的なまちづくりを目指すか、他の地域と同じような没個性的なまちを目指すか、よく考えてからマスタープランの改定を進めてもらいたい。 	A-1 今後の施策・取組等の推進に向けて参考とする。
114	<ul style="list-style-type: none"> ・苦言です。西地域のまちづくり、中央地域のまちづくり、東地域のまちづくりの地図が小さくて虫メガネを使っても見えない。意見を求めるなら3地域のA4の大きさの地図を作って配布して下さい。 	A-2 実際の大きさはA4サイズとなっている、概要版等の作成の際の参考とする。

小平市都市計画マスタープラン改定（素案）に対する
市民意見公募手続（パブリックコメント）の結果 ー論点整理ー
【検討用資料】

●都市計画道路の整備推進について

論点	都市計画道路の整備は、小平市の特徴である小平グリーンロードなどと交差することでみどりを損ない、またコミュニティの分断につながる。今後、市民参加で見直しが必要ではないか。
市の考え方	<p>広域ネットワークを形成する都市計画道路は、円滑な交通ネットワークの形成や、渋滞の解消、歩車道分離による歩行者や自転車利用者の快適性の向上、沿道緑化による緑の創出、延焼遮断機能としての防災性の向上、沿道利用の促進によるにぎわい創出など多くの効果をもたらしますことから、地域の特性や環境への影響に配慮しながら、早期実現に向けて取組みを進めます。</p> <p>なお、優先整備路線の整備による周辺のまちづくり等につきましては、市民参加により整備を進めていきます。</p> <p>優先整備路線以外の都市計画道路については、地域のまちづくりにあわせた事業化の検討など、東京都と連携しながら、今後の都市計画道路のあり方について検討していきます。</p>
主な意見 ※資料4の番号	11、18、23、24、34、44、45、46、47、67、68、71、72、77、82、83、103

●市街地再開発事業について

論点	小川駅西口や小平駅北口で検討されている市街地再開発事業について、商業施設などが入った高層タワーの建設を中心に記載されているが、市として情報公開が不足している。現計画は、小平市のまちづくりには合わないと考えられ、将来の人口減少などの課題を見据えても問題ではないか。また、再開発事業は、事業推進のための準備組合で検討されているが、また決定されていない事業に関して記載されているのはおかしいのではないか。
市の考え方	社会経済状況の変化や小平市の特性や課題などから整理した、本マスタープランの見直しの視点を踏まえ、小川駅周辺や小平駅周辺の拠点性を高めることは、「まちの将来像」や「まちづくりの目標」の実現に必要であることから、市としては市街地再開発事業を支援していきたいと考えております。具体の事業の記載内容については検討していきます。
主な意見 ※資料4の番号	26、41、63、69、76、79、88

●みどりの維持・保全・活用について

論点	みどりの維持・保全が必要であるとしているが、都市計画道路の整備や土地 区画整理事業等により、みどりを喪失することになる。また、農地については、 宅地化により減少しているため、保全する方策が必要ではないか。
市の考え方	都市計画道路の整備にあたっては、沿道のまち並みに配慮した緑化を推進し、 緑豊かな潤いある幹線道路沿道の空間を形成を図ります。また、土地区画整理 事業は、良好な住宅都市として市街地の維持・形成に向けて、敷地の細分化や 住宅以外の用途の建築物の混在などを防止するため、必要であると考えており ますが、地区計画の活用などにより、みどりの創出を図ります。 農地については、緑地としての機能や災害時のオープンスペースとしての機 能、農業体験や環境学習の場としての役割などさまざまな機能を有しているた め、農業振興施策と連携を図りながら適切な保全に向けた検討を進めます。具 体的なご意見については、今後の施策や取組み等の参考といたします。
主な意見 ※資料4の番号	9、11、13、14、17、19、22、23、24、31、32、56、57、58、61、68、77、 85

●市民参加による取組みについて

論点	市民とともにまちづくりを進める視点が不足しているのではないかと。また、 「小平市民等提案型まちづくり条例」が活用されていないのは問題ではないか。
市の考え方	今後のまちづくりにおいては、参加と協働のまちづくりが重要であると考え ていることから、まちづくりの目標の一つを「市民の“ちから”を活かせるま ちをつくる」としたところです。今後は、「まちづくりの目標5」に基づく戦略 を推進する中で、第5部「都市計画マスタープランの推進」のとおり、引き続 き「小平市民等提案型まちづくり条例」の活用を図っていきます。
主な意見 ※資料4の番号	1、20、89、90、91、92、93、94、95、103、105